

## 推薦文

公益社団法人東京青年会議所  
第75代理事長 高木 隆太

「新日本の再建は我々青年の仕事である。更めて述べる迄もなく今日の日本の実情は極めて苦難に満ちている。この苦難を打開してゆくため採るべき途は先ず国内経済の充実であり、国際経済との密接なる提携である。その任務の大半を負っている我々青年はあらゆる機会をとらえて互に団結し自らの修養に努めなければならぬと信ずる。」

これは、1949年9月3日に制定された東京青年会議所の設立趣意書の一節です。東京青年会議所は、初代理事長の三輪善兵衛先輩をはじめとする48人の志を同じくする青年が集い、戦後の焼け野原から日本の復興という大きな使命のもと、家族や商売を守り、また住み暮らす大切な街を復興させるために設立されました。

この創設当時の青年会議所の使命と情熱が、常に外口真大君の心に宿っています。

私が設立趣意書の真の意味を理解できたのは、2021年に外口真大君が東京青年会議所の理事長を務めたときでした。当時の社会は新型コロナウイルスの混乱にあり、誰もが不安と恐怖を抱えていました。

「設立趣意書の志こそ、我々の原点である。我々が常に立ち返るのは原点である。」

これは外口真大君の理事長所信で述べられた一節です。今でも私の胸に深く刻まれており、私の行動力の源となっています。2021年度の東京青年会議所の事業数はコロナウイルスの影響のなかった2019年度よりも多く、JCI世界会議ヨハネスブルグ大会でグランプリを2つの部門で受賞し、会員拡大数も前年度を超えるなど、外口真大君は志高い若きリーダーとして、組織とメンバーを力強く率いました。2021年度の東京青年会議所は、一つの活動も止めることなく、家族・会社・地域のために組織が一丸となり、地域に根ざした活動を展開しました。

経済成長の限界、地球規模の環境問題、極端な格差、国際的な分断、そして戦争など、複雑化する様々な社会課題により、世界は今、混沌としています。このような時代だからこそ、社会が求めるリーダーの姿が問われます。2010年に入会以来、東京青年会議所のみならず日本青年会議所でも数々の役職を歴任した外口真大君こそ、誰よりも経験豊富で未来を創造する力を持ち、メンバーの意識を変革し、社会の変革の起点を創ることができると信じています。

外口真大君だからこそ、創始の青年会議所が抱いた責任と誇りを胸に、今の世界、そして今

の日本を、仲間たちと力を合わせて良い社会へと革新できる。青年会議所は世界を変えることができる」と確信しています。

「変わったのではない、変えたのだと誇れる未来へ」

外口真大君は、一人ではなく仲間と共に常に成長し、希望と笑顔が溢れる未来を創り出すことができる光です。すべては明るい豊かな社会の実現のために。

東京青年会議所の総意をもって外口真大君を全力で支援することをお約束し、公益社団法人日本青年会議所2025年度会頭候補者として自信を持って推薦いたします。